

＜中学校外国語（英語）部会＞

研究主題

「書くこと」の表現の能力を高める指導方法の工夫・改善

研究の概要

「書くこと」の表現の能力を高める、「書くこと」の領域と他の領域との関連を図った指導の工夫や家庭学習とその指導の在り方について研究開発を行う。

I 研究の目的

学習指導要領では、「書くこと」の目標として、「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする」を挙げている。このことは、実際に言葉を使用してコミュニケーションを図ることを重視する観点から、与えられた語や文を書き写すだけでなく、自分の考えなどを書くことが重要であることを意味している。

しかし、平成16年2月に行われた都教育委員会の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「書くこと」の表現の能力については、おおむね良好とは言えないという結果であった。

これらの状況を改善するために、学習指導要領の「基準性」を踏まえて、学習指導要領に明示された「書くこと」の目標の実現に資する計画的・継続的な指導の工夫や生徒の習熟の程度に基づいた、個に応じた指導の在り方について研究を行う。

II 研究の方法

1 「書くこと」の領域と他の領域との関連を図った指導を工夫する。

言語活動の指導をするに当たり、「書くこと」の指導事項のみを取り上げるのではなく、他の領域の指導事項と組み合わせることにより、日常生活における自然なコミュニケーションの場面に近い状況を設定し、生徒に目的意識をもたせて「書くこと」に取り組ませる。

- 「書くこと」と「聞くこと」との言語活動を関連させた指導 <事例Ⅰ・Ⅱ>
- 「書くこと」と「読むこと」との言語活動を関連させた指導 <事例Ⅲ>

2 「書くこと」の表現の能力を高める家庭学習とその指導を工夫する。

家庭学習の内容を、授業で学習した単語、語句、文型等を繰り返し活用できるものとし、既習事項の定着を図るとともに、自分の考えを表現できるようにする。また、授業において、家庭学習の内容について指導することにより、生徒が書いた様々な表現を全体で生かしたり、誤答を分析し適切にフィードバックする指導を行う。

- 日記を通じた家庭学習の指導 <事例Ⅳ>
- 自己表現ノートを活用した家庭学習の指導 <事例Ⅴ>
- チャンクを重視した家庭学習の指導 <事例Ⅵ>

- ③生徒が書いた英文を発表する。発表した表現のうち場面に適切で積極的に使わせたいものについては生徒にフィードバックし、用紙にメモを取らせる。
- ④教師は生徒のワークシートを回収・添削し、次の授業で返却する。適切な表現については再度フィードバックする。

<個に対する手だての例 (STEP 7の場合) >

- ・十分満足できる →自分の意見や感想を踏まえて、相手への質問文を書かせる。
- ・おおむね満足できる→より長い英文や感想を含む英文を書かせる。
- ・努力を要する →聞き取った内容を繰り返し書かせる。

<事例Ⅱ「書くこと」と「聞くこと」との言語活動を関連させた指導(2)>

1 活動名 Listening to Writing

2 活動のねらい

基本的な英文が定着していなければ英語での自己表現は難しい。興味を失いがちな復習を意欲的に行う方法として **Listening** を取り入れ、聞き取った基本的な英文を基にまとまりのある英文が書けるようにし、更に自分の感想や意見を表現する力を付けていく工夫を行う。

3 指導計画例 (第1学年後期から第3学年)

各課に1回程度を目標とする。教科書には直接関係のない内容で行う。1回の指導にかかる時間はおよそ30分とする。英文については、既習の単語や文型を中心に構成する。

4 指導内容・方法

- (1) ワークシート配布
- (2) 状況設定説明

その日の活動の状況設定をワークシートを読みながら確認する。目的をもって書くことにより、**Dictation** ではない感想や意見を入れた自己表現ができるようにする。

- (3) **Listening**

ア 教師がまとめた英文を2回読む。

【ワークシート例の読み上げ英文】

Ms. Simon: What is your name in Japan?
When did you come to Japan?

Kokushoryu: My new name is Kokushoryu.
I came here last week.
I arrived at Narita on Monday.

Ms. Simon: What did you do on Tuesday?

Kokushoryu: On Tuesday? I started training, of course. I got up at 5:30 and practiced sumo for 5 hours.

Ms. Simon: You practice sumo very hard, don't you?

Kokushoryu: I am a new sumo wrestler. I like sumo. I came to Japan to be a strong wrestler.

Ms. Simon: I see. What did you do on Wednesday?

Kokushoryu: I played Japanese video games for the first time.

Ms. Simon: Did you enjoy it?

Kokushoryu: Yes, I did. Japanese video games are great.

【ワークシート例】

KOKUSHORYU I

3rd year class _____ No. _____ Name _____

【ニュース原稿を音読しよう】
 ニュースキャスターの Simon がハワイ出身の力士にインタビューをしていました。あなたはそのキャスターになったつもりで4文以上のニュース原稿を書きなさい。2文(以上)はインタビューの内音から、あとの2文(以上)は Kokushoryu の感想や意見を書きましよう。

Notes: 名前 _____ その他: _____

job: _____

what he did: Monday _____ Tuesday _____

Wednesday _____

ニュース原稿

Word Bank

sumo ring ~し始める Hawaii ハワイ	video games テレビゲーム for the first time 初めて	airport 空港 sumo wrestler 相撲取り
-------------------------------	--	----------------------------------

伝説・意見のヒント = strong, rich, a grand champion 横綱, want to~, become
 (こんな言葉も使える) famous, enjoy his life

..... オリセン

イ **Listening** 中、生徒はメモをとる。ワークシート下部には、**Word Bank** がありヒントになる単語が載っている。

<個に対する手だての例>

- ・十分満足できる → Word Bank 部分を二つ折りにして隠して Listening をさせる。
- ・おおむね満足できる → よく聞き取れなかった場合のみ、Word Bank を参考にさせる。
- ・努力を要する → Word Bank を参考にさせる。

(4) Writing

<個に対する手だての例>

- ・十分満足できる → 感想や意見を増やすよう、自分のことについて再度考えさせるようにヒントを示す。
- ・おおむね満足できる → 感想や意見を少し増やすようにヒントを示す。
- ・努力を要する → 本文の概要や表現形式等についてのヒントを示す。

(5) 復習

前時の活動で良くできた文を紹介するとともに、間違いの多かった事項を説明する。

(6) 本時のワークシート回収

(7) Writing 添削

書く意欲に重点を置き、意味の通る文が書けていればあまり細かい添削はしない。

<事例Ⅲ「書くこと」と「読むこと」との言語活動を関連させた指導>

1 活動名 メール返信文を書く。

2 活動のねらい

メールの返信文を書くという設定をすることにより、意欲的に「書くこと」に取り組みせるとともに、相手の話題に合わせて返事を書かせるだけでなく、自分から相手に新たな話題を提示することができる力を身に付けさせる。また、興味・関心を高める共通のメール文を全体に提示することによって、全体へのフィードバックを焦点化して行う。

3 指導計画例（第2学年）

指導時数は月1～2回程度、1回につき20分以内とする。当初は下記の独自課題を活用することで課題ごとに表現範囲をしばって必要な言い回しや表現の仕方を学習する。独自課題では、新出単語を極力抑えた英文とする。これは英文を理解する時間的な負担を減らし、書いて表現することに集中させるためである。また、教科書の題材に関連したメール課題を併用する。これにより、各課の内容に沿った継続的な指導をすることが可能となる。簡単な英語で自分の気持ちを表現する練習を重ね、最終的には教科書題材の感想等を数行で書けるようにする。相手に伝えたい情報や気持ちを整理して文章化する手順を継続して指導する。

[独自課題例]

- ・外国からきた初めてのメール→返信（自己紹介・学校のこと・自分が考えた話題）
- ・スポーツを話題としたメール→返信（スポーツ・自分が考えた話題）
- ・音楽を話題としたメール→返信（音楽・自分が考えた話題）
- ・韓国の祝日、祭りを話題としたメール→返信（日本の祝日、祭り・自分が考えた話題）
- ・新たな友人の紹介を話題としたメール→返信（自分の友人・自分が考えた話題）

[教科書に沿って考えられる課題例（2年）]

- ・Unit 1（ハイキングのお誘いメール）
- ・Unit 2（ゴールデンウィークの予定・約束メール）
- ・Unit 3（アンケートに対する回答）
- ・Unit 4（ホームステイ中の友人からの相談メール）
- ・Unit 5（時事に関する意見交換メール）
- ・Unit 6（コンサート・クリスマスなどの情報交換メール）
- ・Unit 7（お気に入り映画に関する交換メール）

4 指導内容・方法

授業における返信メール指導（20分間）の流れ

時間	学習活動	生徒の活動	教師の指導
5分	Reading		<ul style="list-style-type: none"> ・メールを提示（パソコン・模造紙・カード・パワーポイントなど） ・読み取りに必要な絵・写真の提示 ・教師がメールをゆっくりと発音する。
15分	Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の確認 ・黙読1回→挙手→音読2回 ・読み取った主な情報をメモする。 ・個人音読数人 ・返信すべき主な情報と話題をメモする。 ・返信メールの作成 ・数人による板書発表 ・発表文の修正と他の表現について意見を出し合う。 ・修正文の音読または書き取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの観点をカードで提示 ・読み取りポイントを記入させる。 ・全体から個人への読み確認 ・返信ポイントの確認 ・机間指導で質問に答える。 ・発表生徒を指名（3人程度） ・生徒の表現について修正案や他の表現を考えさせる。 ・発表文の添削と音読
		・宿題となる個人課題の確認	・個別課題の説明

ワークシート

<個に対する手だての例>

- ・十分満足できる → 返信文における新たな話題について詳しく書かせる。
- ・おおむね満足できる → 返信文における誤りを修正し、改めて英文を書かせる。
- ・努力を要する → 返信文として必要な事項を記入させ、返信文例を書き写させる。

<全体に対する手だての例>

- ・多様な表現を身に付けさせるとともに、「書くこと」への動機付けを図るため、提出されたワークシートの中から良い英文をまとめ、暗記用プリントとして配布する。

【授業で使用したメール文例】

I'm Bob.
 Are you fine?
 I practice basketball every day.
 I'm a good basketball player.
 I like playing basketball very much.
 What sport do you like?
 Please tell me about it.
 On December 24th I'm going to go to Japan
 with my family.
 See you!

【おおむね満足できる状況と判断した返信文の例】

Hi, Bob
 I'm Yoko, 14 years old.
 My hobby is ^{playing} basketball, too.
^{Playing} basketball is very fun.
 I went to Tokyo Disney ^{land} last week.
 I had a good time ^(there).
 If I can see you, Let's go there.
 see you! (I went to go to Disney Land with you. FROM: YOKO)

【2年授業プリント例】

1. 相手メールからの情報をメモしよう！
2. 自分のメールに載せたい内容をメモしよう！
 (知りたいこと・伝えたいこと・他)
3. E-mail 返信文を書こう！
 A: 相手の話題に合わせた返信内容
- B: 新しい話題を自分から提供しよう。

【努力を要する状況と判断した生徒に対する個別課題の例】

1. 1つずつ完成させましょう！
 () (), ポブへ
 I'm (). 私は～です。
 I like (). 私は～が好きです。
 I'm a big fan of ().
 私は～の大ファンです。
 Who is your favorite basketball player?
 あなたは誰のファンですか。
 Some day, let's go () the game!
 いつか試合を見にいこうね！
2. もう一度、きちんと英語を書き直そう！

<事例Ⅳ 日記を通じた家庭学習の指導>

1 活動名 日記

2 活動のねらい

英文日記を書き、自分の思いや考えを自由に表現させ、自分のことを積極的に表現できる能力を育成する。またその内容を発展させるためにトピックを与え、ウェビングの手法を用いて、まとまった内容の英文を表現できる能力を育成する。

3 指導内容・方法

「日記の書き方」を教え、1日で3文程度、1週間で3日程度、日記を書かせる。

授業の始め15分程度を使い、1回につき10名程度で添削し、ファイルさせる。

《気持ちをよく表した作品》

《内容をしぼった作品》

《時間の流れに沿った作品》

Sat, July 24
Wow! Tomorrow I will leave
Japan for Australia. I have just
finished packing. I can't wait to
go to Australia.

Mon, Aug 28 Clear Hot
I went to the concert of Arashi in
Shinyokohama with my friend. We
sang their songs together.
I was very very happy.

Sat, Aug 28 Clear Dry
In the morning I studied math.
In the afternoon I played video
games. At night I watched TV.
It was fun.

「トピック」を与え、ウェビングを行い、英文を構成し日記を書かせる。

授業の始め15分程度を使い、1回につき10名程度で添削し、ファイルさせる。

《自分に関する作品》

《学校行事に関する作品》

《社会事象に関する作品》

Thurs, Dec 1
My dream is to become a singer.
I have not changed my dream.
I hope that my dream comes true.
Surely!!

Thurs, Sep 23 Hot
I went to Ginkakuji. It was built
by Ashikaga Yoshimasa in the
Muromachi period. It was simple.
I want to go there again.

Sun, Dec 4
I thought of the earthquake in
Nigata. It was very serious.
I only can do fundraising. For it,
I think I will save money.

4 指導上の留意点

(1) 個に対する手だての例

十分満足できる →自由に発想させ、より発展的な内容を表現させる。

おおむね満足できる→模範例文から、より自分らしい表現を工夫させる。

努力を要する →模範例文の一部を替えることより始め、1行でも努力を賞賛する。

(2) 家庭学習ができない生徒には、日本語で言わせ、教師がその英文を書き、写させる。

家庭学習の習慣が身に付いていない生徒には、その場で書かせる。

(3) 意欲を持続させるために、ヒントを与え内容に変化をもたせる。

5 フィードバックの仕方

作品の中で模範となる例を紹介したり、共通して見られた間違い等について指摘する。

《正誤例》

時制に間違いがある例 (誤) I play baseball yesterday. → (正) I <u>played</u> baseball yesterday.
前置詞に間違いがある例 (誤) I went <u>to</u> shopping → (正) I went shopping.

<事例Ⅴ 自己表現ノートを活用した家庭学習の指導>

1 活動名 自己表現ノートの活用

2 活動のねらい

「書くこと」の表現の能力を高めるためには文法事項の理解や練習を行うだけでなく、自分の考えなどを書くことができるようにすることが大切である。そこで「自己表現ノート」を作り、新出文法事項の「文法復習プリント」と、その文法事項を使って実際に自分の思いや考えを表現してみる「自己表現プリント」の両方に取り組みさせる。また、その内容を授業で全体にフィードバックし、多様な英語の表現や発想を生かすことができるように工夫する。

3 指導内容・方法

家庭学習として次の2種類のプリントを行い、「自己表現ノート」に添付する。

(1) 文法復習プリント

教科書の新出文法事項の学習が終了した後に文法復習プリントを配布する。提出後は教員が点検し、授業中に返却する。間違いに関しては訂正を加え、返却したプリントをノートの見開き左側に張らせる。

(2) 自己表現プリント

上記(1)の終了後、自己表現プリントに自己紹介などのテーマを示し、文法復習プリントで学習した文法事項を活用させながら、英文を書かせる。提出後は教員が点検し、授業中に返却する。プリントには間違いを訂正するだけでなく必要に応じてコメントをつけ、別の表現があれば例として挙げる。返却されたプリントはノートの見開き右側に張らせる。

<文法復習プリントと自己表現プリント例>

1年英語 文法の復習プリント (L6 [1])


- 次の()から適切な語を選び、○で囲んでみよう。
 - Tom is my friend. (He / She) is 13 years old.
 - This is my friend, Yumi. (He / She) is a tennis fan.
- 次の日本語にある英文になるように、()内に適する語を囲んでみよう。
 - 彼は小さな少年です。
(He is a little) a little boy.
 - 彼女は私の友だちです。
(She is) my friend.
 - トムは中学生です。
Tom (is) a junior high school (student).
 - 久美はかわいい女の子です。
Kumi (is) a (pretty) girl.
 - 彼は高校生ではありません。
(He isn't) a high school student.
- 次の日本語に合う英文になるように、()内の語を並べかえて書いてみよう。
 - 彼は野球のファンです。(fan / he / baseball / a / is / .)
He is a baseball fan.
 - 彼は先生ではありません。(teacher / not / he / a / is / .)
He is not a teacher.

Very good!

1年英語 自己表現プリント 14 (L6 [1])


☆ 下の□の中に(1)はあなたのお母さんかお父さんの、(2)はあなたの友だちの似顔絵を描いて、彼らを紹介する英文をそれぞれ5文以上で書いてみよう。Model: What's his name? His name is ...

(1)



He likes Karate.
He likes FI.
He uses a computer every day.
He has many books.
He have one brother and one sister.

(2)



His name is Yutaro.
He likes Shogi.
He is from Daitama.
He lives in Haramachi.
His house is near Enyuzi.

Very good!

4 指導上の留意点

- (1) テーマ設定の英文作成に関しては、生徒が書いた英文は内容を重視し、生徒が英文を書く意欲を失うことがないように、あまり細かくチェックしすぎないようにする。ただし、新出文法事項の間違いに関しては、内容に関係なく訂正を加える。
- (2) いかに関局的に英文を書くかが重要なので、「3文以上書いてみよう。」という条件になっても個々の能力も考慮し、1文でも書いてあれば、その意欲を認める。
- (3) 全く家庭学習をしてこない生徒には、休み時間や放課後を利用し、個に応じた指導を行う。また、補充教室として勉強会も行う。

5 フィードバックの仕方

- (1) ノートの返却時、復習プリントについては、間違いの多かった点を指摘する。また、自己表現プリントに関しては、生徒が書いた英文を口頭で発表したり、プリントで提示する。その際、模範例だけではなく、間違いが多かった点についても指摘する。
- (2) 自己紹介などでは、スピーチの一環として全員の前で発表させる。その際、他の生徒は聞いた英文の内容を簡単にメモし、再度英文に直す。
- (3) 内容により、小グループでの発表を行わせる。
- (4) 「修学旅行」などの行事に関わる英文や「夏休みの思い出」などは、清書して全員分、校内に掲示し、それを読ませて英語で感想文を書かせる。

<事例Ⅵ チャンクを重視した家庭学習の指導>

1 活動名 チャンクを重視した指導と家庭学習

2 活動のねらい

「書くこと」の表現の能力を高めるには、英語の基本的な表現を授業で身に付けさせるだけでなく、家庭学習等を通して更に定着を図っていく必要がある。そのためには、授業の中で、単語レベルでなく意味のあるかたまりである「チャンク」を重視した指導を継続的に行うとともに、授業と家庭学習との連動を図ることによって、語句や文の効果的な定着を図る。

3 指導内容・方法

指導計画例 <授業中のチャンク練習と家庭学習への流れ>

- (1) 次のようなシートを毎レッスン用意し口頭練習を授業で行う。

<チャンクシート>

<i>chunk training</i>		Lesson4
1 私は持っている。	1 I have	
2 そのおもちゃ	2 the toy	
3 私の鞆のなかに	3 in my bag	
4 私はそれが好きです。	4 I like it.	
5 とても	5 very much	
6 けんだまチャンピオン	6 a kendama champion	

活動の注意点

- ☆リズムよく練習させる。
- ☆ペアで繰り返し練習させる。
- ☆机間指導し一人一人の定着の状況を見る。
- ☆いくつできたか確認し、表に記入させる。

(2) 授業の最後に二つの家庭学習課題を指示する。

ア チャンクシートの内容を言ったり、書いたりできるようにすること。

イ チャンクシートの中の表現を使って英文を書いてくること。

※課題は次回の授業で回収、確認テストとともに点検しすぐにフィードバックする。

〈家庭学習課題例〉

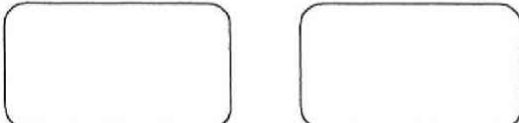
チャンクシートの表現を参考にして文を作ってみよう！


1年 組 氏名 _____

① 私は・・・を持っています。

② 私は・・・が好きです。(スポーツ・食べ物・など)

①持っている物 ②好きな物のイラストを描いてみよう。





先生はラーメンが好き！！

(3) 次回の授業の最初に課題を回収する。また確認のテストを行う。

〈確認テスト例〉

チャンク&自己表現で力をつけよう！！

NO. 4

チャンク

1年 組() 氏名 _____


①とても

② 私は・・・が好き

③ 私は・・・を持っている。(・・・に言葉を入れて)

自己表現

④私は・・・が好きです。(・・・に言葉を入れて)



持っているものは家にあるものでもいいんだよ。兄弟やペットなどもこの表現を使えるよ！！

4 指導上の留意点

(1) チャンクシートには、必ず各課ごとのポイントになる表現を入れる。

(2) 家庭学習課題には本時で学習したチャンクの表現が必ず入るようにし、生徒がそれを使って自己表現できるように工夫する。

5 フィードバックの仕方

(1) 家庭学習課題や確認テストの結果を見て、次の授業の始めに、共通した間違いはすぐにフィードバックし、個々の生徒の指導に役立てる。

(2) 各課ごとに、いくつかの既習表現を組み合わせて、まとまった文章を書かせる。工夫されているものは英語科通信等でフィードバックし、生徒の意欲を喚起する。また、定期的に学習教室を放課後開き、個々の生徒を指導する。

V 研究の成果と課題

<「書くこと」の領域と他の領域との関連を図った指導の工夫>

1 成果

○「書くこと」と「聞くこと」との言語活動を関連させた指導

聞き取った文を作文に使おうとするので、文中の基本文の定着が進んだ。また、状況設定をすると、自由に英文を書くことへの抵抗感が減り、既習の表現を使って自分の考えを表現しようとする意欲が高まった。生徒に「書きたい」という気持ちをもたせるために行った、<聞き手がどのような立場>で<誰に書くのか>という場面や状況の設定は有効であった。

○「書くこと」と「読むこと」との言語活動を関連させた指導

回数を重ねるにつれ、まとまりのある文を書くことに慣れ、豊かな文の構成ができるようになってきた。特に、共通のメール文を全体に提示し、事前に返事を書く際に参考となる表現やヒントを示したことは、自分の思いや考え等を表現するのに有効であった。

2 課題

○「書くこと」と「聞くこと」との言語活動を関連させた指導

生徒の意欲を維持するためには、「正確さ」だけにとらわれることなく、いかにワークシートの内容を添削するかが課題である。また、提示した英文を正確に聞き取ることが前提となるので、教科書本文の内容や既習の文法事項との関連付けを図るとともに、段階を追って継続的に行える指導計画を作成することが必要である。

○「書くこと」と「読むこと」との言語活動を関連させた指導

十分な指導時間の確保と多様な支援方法の確立が課題である。個に応じた「書くこと」の指導を充実させるためには、時間をかけて継続的な指導を行うとともに、段階を踏まえた適切でわかりやすい支援を繰り返す必要がある。

<「書くこと」の表現の能力を高める家庭学習とその指導の工夫>

1 成果

○日記を通じた家庭学習の指導

日記を継続することによって、自分の思いや言いたいことを様々工夫して表現をするようになってきた。また、「書くこと」が苦手であった生徒も、模範例文の表現を入れ替えることによって、表現することができるようになってきた。

○自己表現ノートを活用した家庭学習の指導

自己表現ノートを活用して学習することで学習意欲が向上し、文法事項の理解の定着と文章表現力（書く力）の向上につながった。書くことに慣れてくると、自主的にいろいろな表現を活用するようになり、内容のある英文を書けるようになった。

○チャンクを重視した家庭学習の指導

チャンクシートを使った練習により、リズムよく効果的に語句や文などの定着を図ることができた。また、チャンクの部分が固定しているので間違いも少なかった。授業と家庭学習の連動で書くことが習慣付けされ、「書くこと」の表現の能力が向上した。

2 課題

「書くこと」への意欲の向上に向け、添削を行う際に個に応じた支援をどのように進めるか、また、家庭学習における「書くこと」への動機付けをどのように図るかが課題である。